

4. 紅型染めバッグ作り体験

実施主体名	虹亀商店
開催日時	3月5日 13時 ~ 3月5日 16時
開催場所	カフェなちゅら
実施内容	※実際に実施した内容を簡単にご記入ください。 キャンバス地のトートバッグを紅型染めして、サンゴや海の仲間のデザインのオリジナルバッグをつくりました。
実施状況	※当日の天候（野外イベントのみ）、参加者数、参加者層（親子、シニア、若者、観光客、地元民等）、参加者の様子・反応などを簡単に記述ください。 絵本読み聞かせライブ「やどかりの夢」、ビーチクリーン、カヤック体験との共同企画だったので、多くのお客様（合計100名ほど）に集まっていただき、にぎやかに1日イベントを楽しんでいただきました！ その内紅型体験をされたお客様は十名ほど。幼稚園生から、お母さんやおばあちゃんといった御家族づれ、若い女性グループと、あらゆる世代の方に体験していただきました。
実施しての所感	海が近かったのはよかったのですが、場所がわかりにくく、体験スペースもあまり広くなかったため、次はもうちょっと広い場所で多くの方に体験していただきたいと思いました。

【当日の様子】



5. 写真展&トーク「沖縄島のサンゴ礁のいま」

実施団体	沖縄リーフチェック研究会、泡瀬干潟博物館カフェウミエラ館
開催日時	3月1日12時～3月12日17時（写真展） 3月4日18時～3月4日20時（トーク）
開催場所	泡瀬干潟博物館カフェウミエラ館
実施内容	辺野古、大浦湾を中心に、泡瀬干潟、浦添、など沖縄島各地のサンゴ礁の写真を展示します。4日（土）には写真家のみなさんやサンゴ学者の安部真理子さんからお話を聞きます。
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・平日は5-8名、週末は10-15名の人たちが写真展を見に来ました。 ・お話し会には約40名の参加者があり、県外からの参加もありました。年齢層は比較的高かったものの、おはなし会の多くの講師がテーマにしていた巨大開発が進行中である場所（辺野古、泡瀬干潟、浦添）について質問や意見が多く出ました。一方で2016年のサンゴ白化レポートも興味深く耳を傾けていた人が多かったです。 ・写真展はダイビングチーム「すなっくすナフキン」、牧志治氏撮影の辺野古・大浦湾の海の様子を中心に展示。 ・おはなし会講師は牧志治氏（辺野古）、小橋川共男氏（泡瀬干潟）、有光智彦氏（浦添）、玉栄将幸氏（勝連半島白化レポ）、安部真理子（辺野古、サンゴ白化レポ）。
実施しての所感	<ul style="list-style-type: none"> ・辺野古、大浦湾の海中の様子を見ることができてよかった。 ・どの講師も、自分のフィールドのサンゴ礁の変化を真摯にとらえている様子、一生懸命な様子が伝わってきた。 ・浦添の埋め立てによって多くの生き物がいなくなることは知らなかった。 ・大変なことばかりだということを知った。何か自分にできることはないのかと思った。
メディアへの掲載	20170303 琉球新報 20170308 沖縄タイムス

6. さんごのおはなしをつくろう！

実施主体名	ぷろおきなわ
開催日時	2月26日10時～11時半
開催場所	沖縄県立博物館・美術館 こどもアトリエ
実施内容	①さんごの専門家からさんごのおはなしを聞く ②話を聞いて、画用紙に自由に絵を描く ③こどもたちでさんごのおはなしをつないでつくる
実施状況	・参加人数 こども13人、保護者10名 ・参加のこどもたちは、はじめての体験だったが、とても熱心に絵を描いたり、おはなしをつくっていた。それを見ている保護者も大変あたたかなまなざしで、終わってか、子どもたちがつくったお話しに驚いていた。終了した後も、講師の先生からのさんごのお話しを熱心に聞き、なかなか帰れずにいた方が多くいた。
実施しての 所感	・さんごのおはなしづくり！という未知の世界のイベントへ当初はどのくらい参加者がいるのか不安な要素もありましたが、当日は定員オーバーする参加者で大変盛り上がりしました。 ・子どもたちに強制せずに、それぞれの個性を大事にすることを基本とし、おはなしをつくるときも「待つ」姿勢を貫いたことが、とてもよかった。 ・感想もいただき、大好評でした。何よりも講師の中野先生に子どもたちのつくったお話しをほめていただき、子どもたちも保護者や主催者の私たちが大いに励みになった。

【当日の様子と成果物】



さんごのおはなし

あるところに、小さな小魚がいました。
小魚は大きいさんごの中にくらしていました。
他にも色々な魚がいました。
みんななかよくくらしていました。
その中に、一匹だけカニがいました。
エビも一匹だけいました。
小魚にはたくさんのなかまがいました。
ある日、さんごの近くにオニヒトデが来ました。
オニヒトデはさんごをたべようとしたが、
近くに来たときにカニがハサミを出してさんごを守りました。
オニヒトデはにげていきました。
カニは一匹だったけど、さんごをたすけたので、たくさんともだちができました。
エビはカニがうらやましくなったので、またオニヒトデがやってきたときに
さんごを守ろうとしてオニヒトデのトゲをおりました。
オニヒトデは「いた！！」といてにげていきました。
エビにもなかまがいっぱいできました。
大きなさんごの中に住むなかまたちはみんななかよくなりました。
ある日、サメが来ました。みんなで力を合わせてサメをおいだしました。
その中で1匹の小魚がたべられようとしたので、
カニとエビがサメのはをボキッ！とおりました。
ある日、ジンベイザメも来ました。
今度は小魚がみんなを守ろうとしました。
ヒトデもやってきたし、クジラもやってきました。
さんごはどんどん大きくなって、サメもジンベイザメもクジラも
みーんなこのさんごにすみました。

さんごのおはなしをつくろう！

◎ ふろおきなわ

沖縄県立博物館・美術館こどもアトリエ

2017/2/26



7. 海 LOVE in 宮古島 2017

実施主体名	「海 LOVE in 宮古島 2017」実行委員会
開催日時	3月5日10時 ~ 3月5日15時
開催場所	宮古島 高野海岸
実施内容	前半はボランティア海岸清掃を実施。 後半は、フリーマーケット、地元飲食店の弁当販売などが出店し、地元高校生によるライブが行われました。
実施状況	天候は晴れで暖かかったです。参加人数は 120 名。家族連れや高校生、地元の住民の方などが参加してくれました。 大量の漂着ゴミがありましたが、人数が多かったので、みんなで力を合わせ、きれいなビーチの姿に戻りました。 天気にも恵まれ、皆楽しみながらゴミを拾っていました。 地元の高校生が、記録班として手伝ってくれたり、後半はライブをしてくれてイベントに協力してくれました。
実施しての所感	地元の方も、いつもビーチにゴミが多いことで困っていたので、イベントに協力的で、自治会長さん自らゴミ拾いをしてくれました。また高校生が来てくれたのも、イベントが盛り上がった要因だと思います。
協議会への要望	実行委員は、みんなでサンゴ礁ウィークのジャンパーを着用しました。追加の要望にすぐ対応していただき、ありがとうございました。
メディアへの掲載	宮古毎日新聞 3月7日 掲載 宮古新報 3月7日 掲載 NHKテレビ 3月5日、6日 放映

【当日の様子】



イベント前 スタッフ写真



清掃風景



清掃後、全体写真



高校生によるライブ

サンゴ礁イベント
大量の漂着ごみに驚き
高野海岸で清掃活動

サンゴ礁ウィークイベント「海LOVE in 宮古島」が5日、高野海岸で行われ、砂浜には漂着した大量の漁業用フイやペットボトルなど、約1トンの漂着ごみが回収された。実行委員の感想は「ビーチがきれいになったのはうれしいが、漂着ごみの量に驚き、今後の対策が必要だ」と話した。

高野海岸には海外から流れてきた漂着ごみが多く、清掃活動は毎年行われている。今年も多くのボランティアや地元住民が参加し、約1トンの漂着ごみを回収した。回収されたごみには、漁業用のフイやペットボトル、プラスチックの容器などが多く、中には壊れた釣り具や漁具も見られた。回収されたごみは、専用の袋に入れて持ち帰り、適切に処分される予定だ。

高野海岸には、毎年多くの漂着ごみが発生している。これは、観光客の増加や、悪天候による波の打ち上げが原因とされている。地元自治体や関係機関は、漂着ごみの回収活動を通じて、海岸の清掃と環境保護に取り組んでいる。今年も多くのボランティアや地元住民が参加し、約1トンの漂着ごみを回収した。回収されたごみは、専用の袋に入れて持ち帰り、適切に処分される予定だ。

高野海岸には、毎年多くの漂着ごみが発生している。これは、観光客の増加や、悪天候による波の打ち上げが原因とされている。地元自治体や関係機関は、漂着ごみの回収活動を通じて、海岸の清掃と環境保護に取り組んでいる。今年も多くのボランティアや地元住民が参加し、約1トンの漂着ごみを回収した。回収されたごみは、専用の袋に入れて持ち帰り、適切に処分される予定だ。

海LOVE in 宮古島で演奏する宮高軽音楽部のバンド
= 5日、高野漁港広場

きれいな海広げよう
海LOVE in 宮古島
ビーチ清掃とイベント

高野漁港の広場でバンド演奏が行われ、約20人の参加者が海岸に流れていた漂着ごみを回収した。回収されたごみは、専用の袋に入れて持ち帰り、適切に処分される予定だ。

高野漁港の広場でバンド演奏が行われ、約20人の参加者が海岸に流れていた漂着ごみを回収した。回収されたごみは、専用の袋に入れて持ち帰り、適切に処分される予定だ。

高野漁港の広場でバンド演奏が行われ、約20人の参加者が海岸に流れていた漂着ごみを回収した。回収されたごみは、専用の袋に入れて持ち帰り、適切に処分される予定だ。

新聞記事：宮古毎日新聞

新聞記事：宮古新聞

8. 沖縄のサンゴ礁研究最前線～サンゴは地味だが役に立つ～

実施主体名	日本サンゴ礁学会若手の会
イベント名	沖縄のサンゴ礁研究最前線～サンゴは地味だが役に立つ～
開催日時	3月 12日 12時 ～ 3月 12日 17時
開催場所	沖縄県立博物館・美術館 県民アトリエ
実施内容	サンゴ礁に棲む生き物のタッチプール、生きた有孔虫の観察、生体サンゴと骨格の展示、生体サンゴの顕微鏡観察と蛍光観察、サンゴの白化レポート、調査器材の展示、生き物に名前がつくまでの過程の説明、若手研究者らによる研究ポスター発表、書籍コーナー
実施状況	<p>参加者数：約 70 名</p> <p>参加者層：親子連れ（3-4 名）最多、シニア（単独）若干名、若者（カップル）やや多、ミスワリン（4 名）*すべて地元民</p> <p>参加者の様子・反応など：</p> <p>子ども達にはタッチプールや顕微鏡コーナーが好評で、「ヒトデをはじめて触った」「サンゴのポリプがかわいい」などの感想をいただきました。また、来場者のみなさまは私たちの話を熱心に聞いてくださり、「うちなーんちゅ（沖縄県民）が知らないサンゴのことを外国人も含め若い人が研究していることを初めて知った」「これからも頑張ってもらいたい」という嬉しい言葉をいただきました。</p>
実施しての所感	初年度から通算 4 回目の参加となりましたが、今年になって初めて知り合いの親子が見に来てくれたり、実施後のテレビ報道を見て連絡をもらったりもしました。少しずつですが、身近な人にも認知され、本当に伝えたい人に見てもらえるようになってきたのかもしれない。年々慣れてきたこともあり、今年の実施の省エネ化にも成功しました。
メディアへの掲載	琉球放送「南の島のミスワリン」、3月26日午後3時30分放送分